

共学の先進校・同志社

本井康博

奨励者紹介[もとい・やすひろ]

元同志社大学神学部教授

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。」

(ルカによる福音書 15章4節)

同志社徽章

今年(二〇二三年)は同志社大学が共学を実施してから百年、という記念すべき年です。実は共学よりも三十年早いできごとがひとつあります。同志社徽章(校章)の制定です。お馴染みの三つの三角形からなるあのマークは、一八九三年に同志社神学校の湯浅^{きちろう}吉郎教授が考案しました。ちなみに湯浅は(一九〇八年のW・M・ヴォーリス作詞「カレッジ・ソング」に続いて)一九〇九年に「同志社校歌」をも作詞(作曲は大中寅二)しています。

同志社徽章の三つの三角形は知育、徳育、体育を意味するというのがほぼ定説ですが、今日は同志社創立(一八七五年)をもたらした三大要素(要因)に振り替えてみます。

最初の三角形は安中グループで、代表格は新島襄です。周知の人物ですから今日は深入りせずに、代わりに安中出身の湯浅治郎をメインにします。彼は十年振りにコロラド号でアメリカ留学から帰国した新島を横浜港で迎えていますから、新島の門弟第一号かもしれません。以来、新島の生前中は社員(現理事)として、死後は影の理事長格(財務担当理事)として同志社のために献身しました。それも二十年間無給で、です。

それと並行して彼は多くの近親者を新島に預けます。最初に同志社に送ったのが弟の吉郎です。校章を考案した人物ですね。吉郎は同志社では周知の「熊本バンド」と同世代で、とくに徳富^{そほう}蘇峰とは大の仲良しでした。新体詩の開拓者として文学史上でも著名で、「半月」と名乗りました。

続いて治郎の子どもたち(全部で十四人)のうち、夭折^{ようせつ}した幼児などを除いてなんと十一人が同志社の男子校(英学校)や女学校に入ります。その数たるや、同志社ギネスものですね。人数や働きの点で「吉野の山林王」・土倉^{どくら}庄三郎の一家に匹敵します(本井康博「土倉家の人びと」、『同志社談叢』二五、同志社社史資料センター、二〇〇五年三月)。さながら「西の土倉、東の湯浅」です。

二つ目の三角形は会津グループで、山本覚馬・ハ重の兄妹。そして最後の三角形はアメリカグループで、J・D・デイヴィス、ならびにA・J・スタークウェザーです。ふたりともアメリカ最古のミッション、アメリカ

ン・ボードから日本に派遣された宣教師です。

以上のうち、新島、覚馬、デイヴィスの三人は、いずれも同志社礼拝堂（チャペル）の正面の壁に肖像画として飾られています。いわば同志社創設に貢献した「御三家」です。このうち誰ひとり欠けても同志社英学校（男子校）はここ京都には生まれなかったでしょう。同志社女学校の場合も同様で、男子校を創るために神戸から京都に転出したデイヴィスに対して、京都府知事（榎村正直）の顧問を務めていた覚馬が、「ぜひキリスト教系の女学校も」と勧めました。

覚馬は女性教育にも関心が高く、日本の高等女性教育では先駆的な府立女紅場（現府立鴨沂高等学校）をいち早く創立し、妹の八重を教員として送り込んでいます。ご覧になった方もいらっしゃるでしょうが、八重は一昨日のNHK Eテレ、「偉人の年収 How much? ハンサムウーマン 新島八重」で取り上げられました。大河ドラマ「八重の桜」を監修したからというので、今回も監修を頼まれました。

印象的なシーンは冒頭です。覚馬がいきなり顔を出して「女子教育は大事だ」と叫びます。なお、この番組のテーマである八重の年収ですが、はっきりと分かっているのは兄が創立に貢献した府立女紅場で働いた時の収入位で、インタビュー取材で私は「月三円から三円五十銭」と明かしておきました。

ちなみに八重のキャリアウーマン時代はこの時期だけで、わずか四年ほどで終わります。耶蘇教牧師の新島と婚約したことが問題視され、（相前後して知事からクビを切られた兄と共に）府知事から唐突に免職されたからです。当時のキリスト教や同志社は、右に佛教勢力、左に府庁という「両手に抵抗勢力」といった受難時代でした。そんな時代に八重は京都で初のプロテスタントの洗礼を受けるのですから、勇気がありますね。それに比べると開港地の神戸は別天地です。外国人にとって開港地は母国同然の特権的ゾーンですから、同地に派遣されたデイヴィスは同志社よりも早くにキリスト教系の「神戸ホーム」（今の神戸女学院）を自由に立ち上げることができました。

その後、新島の男子校（英学校）設立事業を手伝うために京都に転出した彼は、京都でも同種の女学校が必要と考えていましたから、アメリカからスタークウェザーという独身女性宣教師を日本に呼び寄せて自分の借家に引き取り、そこに「京都ホーム」を設置します。同志社に男子校が開校された翌年（一八七六年）のことです。今風に言うと、ミッションが役所とは無縁に（勝手に）開いた無認可女子塾です。結果的にスタークウェザーは同志社女学校の創立者であるにもかかわらず、正規の創立者としては同志社でもなかなか認められないのはこのためでしょうか。だから、彼女の肖像画はもちろん、写真ですらいまもって同志社女子大学を始め同志社各校のどこにも飾ってありません。

「京都ホーム」は純然たるミッション・スクールですから無認可のうえ、組織的にも新島や同志社とは繋がってはいません。だから、創立者の肖像画がないのは仕方がないのかもしれませんが、さすが、同志社女子大学は現在、創立年を京都ホームができた一八七六年にしているだけに、この扱いは悲しいばかり

か、残念でなりません。

新島は女子塾がオープンした半年後の一八七七年にお役所の認可を取るために、京都ホームを同志社に吸収し、校長になります。校名も変えます。当初は男子校たる英学校(本校)に対して「同志社分校」(女^{にょ}紅^{こう}場)と「分校」扱いましたが、内容的に役所からクレームが出て、すぐに「同志社女学校」(愛称は同女)と改称いたします。ここから分かるように新島が女学校を創立して校長となったのは一八七七年であって一八七六年ではありません。

熊本グループ・洋学校

同志社の立ち上げに貢献したのは、今述べた三グループ以外にも熊本グループを忘れてはなりません。とくに共学開始という点では不可欠の要素ですから、次に熊本グループに絞り込んで同志社マークを借用します。

最初の三角形は熊本のふたりの少女たち。名前は横井宮と徳富初で、従妹^{いとこ}同士です。

二番目の三角形は、熊本洋学校の教員、L・L・ジェーンズ。洋学校を創った旧熊本藩好みの元軍人です。アメリカの陸軍士官学校の出身者で、デイヴィス同様に南北戦争に従軍した経験があります。夫人のハリエットは、アメリカン・ボードでは有数の名門宣教師家系であるスカッター家の娘です。

三番目の三角形は熊本の男子青年たち。一八七一年に熊本城内に新設された熊本洋学校で学んだ生徒、学生です。彼らは洋学校が数年で廃校されたために出来たばかりの同志社に転校、入学してきます。年齢はバラバラで、下は中学生レベル、上は大学生級です。前者は徳富蘇峰が代表格で十三歳、後者は小崎弘道や海老名^{だんじょう}弾^{だん}正^{せい}が最年長で、すでに^{はたち}二十歳^{にじゅうさい}です。

彼らはなぜ同志社に来たかといいますと、在学中にジェーンズからキリスト教の感化を受けたり、信徒となったりしたからです。厳密な数は不明ですが、三十人台です。彼らは同志社では宣教師たちから「熊本ボーイズ」とか「熊本バンド」と呼ばれます。なかでも洋学校をすでに卒業していた十五人(第一期生から第三期卒業生)は優秀でしたから、同志社は彼らを受け入れるために特別に「余科」(神学科)というコースを新設します。

それにしても、余科とは奇妙なネーミングですね。知事から校内で聖書を教えるはいけないと言われていたので、「神学科」のネーミングはご^{はっど}法度^{はっど}でした。それで、それまでの本科(普通科)に対して「余分なコース」に見せたかったのでしょうか。ですが、中身的には神学科です。その証拠に、学内の宣教師たちは、このクラスを「バイブル・クラス」と呼びました。このクラスこそ、熊本バンド中のバンドと言えましょう。なぜなら新設コースは、それまでの普通科(中高レベル)を超える高等科(大学予科レベルのカレッジ)にあたり、今の神学部の源流になるからです。同志社英学校は彼らを迎えて、いきなりハイスクール(中高)の上に大学レベルのカレッジ・コースを持つことができたのですから、これは「棚ぼた」ですね。

バイブル・クラス

バイブル・クラスの面々は同志社では学生（上級生）でありながら半ば教員です。同じく熊本洋学校の後輩（中退者）にあたる蘇峰たち下級生の指導を受持つ「助教」として、学校から手当を支給されて新島や宣教師を補佐しました。

実は彼らは発足したばかりの同志社のお粗末さや未熟さに^{あき}呆れはてて、入学してすぐに一斉退学を決意します。官立開成学校（東大の前身）に進学した熊本で同級だった横井時雄や山崎^{たのり}為徳のように、東京の学校へ移ろうとしました。ちなみに開成学校の跡地（東京都千代田区神田錦町三丁目の学士会館玄関脇）には、現在「東京大学発祥の地」碑と「新島襄先生生誕之地」碑（碑文は蘇峰）が並んで立てられています。明治維新までここには上州安中藩の藩邸があったからです。

それはともかく、いったんはこぞって転校を決めた熊本バンドの連中ですが、恩師のジェーンズに説得されて一斉退学をとりやめ、同志社にとどまりました。そしてジェーンズの助言を受け入れて、熊本洋学校をモデルにして同志社の基盤造りに精力を傾注します。同志社を改革して「第二の熊本洋学校」、「京都の熊本洋学校」にしようとの意気込みです。一見、傲慢とも見えますが、それだけの力があつたのも事実です。

彼らの貢献振りは素晴らしく、同志社は整備されてやっと学校らしくなりました。そのため、熊本バンドを同志社の創立者に組み込むべきだ、との意見が出るくらいです。たしかに在学中だけでなく、卒業後の働きもまた素晴らしいですね。同志社の最初の卒業式（一八七九年六月）では十五名の卒業生全員が熊本バンド（しかもバイブル・クラス）で、それ以前の入学者は、それまでにたいいどドロップアウトしました。さらに、うれしいことに東大に行った横井や山崎も、失望のあまりまもなく東大を中退して同志社に転入し、熊本洋学校の元級友たちに合流しましたから、同志社英学校第一期卒業生に名を連ねています。

それだけにバイブル・クラスと他の学年やコースとは最初から比較にならないほどの差が生じています。十五名の卒業生のうち五名は、ただちに同志社の男子校と女学校に専任教員として残ります。新島校長を別格とすると、同志社の日本人教員としてはいずれも初めてのケースです。なかでも宮川^{つねてる}経輝などは、新卒教員にもかかわらずいきなり同志社女学校の幹部（教頭格）になります。

さらに新島の死後ともなると、熊本バンド中、初代社長（今の総長）の新島の後を継いで総長に就任する者が（三期生ひとりを含めて）五名にも上ります。小崎^{こざき}弘道（第二代）、横井時雄（第三代）、下村孝太郎（第六代）、原田^{たすく}助（第七代）、そして海老名弾正（第八代）です（第四、五代は土佐人ですから、今日は省きます）。原田は熊本バンドですが、バイブル・クラスの後輩、すなわち同志社第三期卒業生です。原田以外の四人が第一期卒業生（バイブル・クラス）です。

彼ら五人の肖像画は、同志社礼拝堂に飾られています。正面の三人の創立者を含めると、チャペルには全部で十枚の肖像画が掛けられていますが、その半数を旧熊本バンドが占めます。熊本グループの力

や恐るべしです。

ほかにも不破唯次郎^{ただじろう}（共愛女学校創立者）、宮川経輝（梅花女学校第三代校長）、海老名弾正（熊本女学校校長）、加藤勇次郎（同志社女学校教員）、吉田作弥（神戸女学院教員）といった女性教育に尽力した面々もバイブル・クラス出身です。

さらに同志社系の教派（組合教会）による伝道面でもバイブル・クラス出身者の働きは絶大で、小崎、海老名、宮川の三牧師は「組合教会の三元老」としていずれも八十歳前後まで現役を貫きました。

最古級の共学校

ところで、外国人教師ジェーンズを迎えるために建てられた「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」が熊本市に現存しています。熊本初の洋館で、県の重要文化財にも指定されています。二〇一六年の熊本地震で崩壊しましたが、今年（二〇二三年）になって再建（復元）され、先々月の九月から一般公開が再開されました。三十何年か前に初めて訪ねたおり、展示ルームに「日本最古の共学校」とのキャプションがあるのを見つけて、びっくりしたことがあります。

以来、調べてみると先に述べた横井宮さんと徳富初さんが男子校の洋学校で兄弟らと共に学んでいることが分かりました。当初はジェーンズ夫人（ミセス・ハリエット）に英語や洋裁、調理などを自宅（ジェーンズ邸）で、したがってプライベートに習っていたのですが、夫人が出産や育児のために忙しくなったためにそれができなくなり、代わりにジェーンズが教える熊本洋学校（男子校です）で勉強を継続しています。

これを正規の共学と認めることには研究者の間でも異論がありますが、実質的に日本最古級のひとつであることは確実です。横井宮さんは男性に負けないように睡眠時間を三時間に削ってひたすら勉強に打ち込んだそうです。もともと才女ですが、猛勉強の甲斐あってクラス全体でも成績上位に食い込んでいます。なんともアツパレです。

ただし、誇り高い九州男児は女性と机を並べて勉強することには大変な抵抗を示しました。そのため女生徒は教室には入れてもらえず、やむなく廊下で授業を受けたとの証言がある位です。抵抗勢力の代表学生は海老名弾正で、ジェーンズに捻じ込んで抗議しています。ジェーンズからこんこんと説得されても納得しなかったのですが、最後は「君のお母さんは女か男か」と問い詰められて白旗を揚げました。

同志社共学の曙^{あけぼの}

宮さんと初さんのその後ですが、それぞれの兄弟（横井時雄と徳富蘇峰）がいったんは入学した東京の学校を中退して同志社英学校に入学したのを契機にふたりとも（関東の女学校を経由して）同志社女学校に入学します。いわば熊本バンドの女性版です。それだけでも凄いのに、ふたりは同女の勉強では満足できず、熊本時代と同様に兄弟が在籍する英学校で学びます。一八七八年のことですからこれは早いですね。

つまり、熊本洋学校の共学が日本で最古級ならば、それに続く同志社英学校もまた共学の先進校ということになります。それにしても両校で共学の道を果敢^{かかん}に切り開いた生徒が、同じ女生徒であるというのは、なんとも奇^くしきことです。これまたアツパレですね。

その際、熊本と違ってさすが同志社と言えるのは、女生徒の受け入れ方がジェンダーレスであることです。廊下ではなく、ちゃんと教室に入れたばかりか、記録上も成績・出席簿では男女同列（アルファベット順）に扱っています。制度としては別学ですが、特例としてほぼ正規生並みの共学です。

同志社共学の曙^{あけぼの}とも言うべき最初の共学を経験した女生徒は宮と初ですが、実はほかにもう一人います。覚馬の娘（ですから、八重の姪っこ）、山本峰です。彼女は後に宮の兄、横井時雄と結婚しますから、端^{はし}なくも宮と縁続きになります。宮と初はもともと従妹同士ですから、同志社における最初の共学三人娘はそろって一族になるというのも奇しきことです。結婚と言えば、宮は海老名弾正と、初は湯浅治郎と夫婦^{めおと}になります。三組ともいずれもビッグ・カップルですね。

同志社の共学に対しては、さすがに旧熊本バンドの面々は熊本で共学を経験済ですから、表^{おもて}立った反対はしていません。ですが、男尊女卑の姿勢が完全に消えたわけじゃありません。たとえば、後に第二代同志社総長になる小崎弘道。彼は新島校長が妻の八重を教育する一環として、男子校（同志社英学校）の聖書の授業などを男子学生と並んで聴講させたことに憤慨しています。当時の学生は女性教員（たとえば、あのM・F・デントン）から習うことにも抵抗していますから、時代を感じますね。

大学の共学化

話はいきなり二十世紀に飛びます。新島悲願の同志社大学が新島の死後二十二年を経た一九二二年（総長は原田^{たすく}助）に実現しました。ただし、専門学校令による大学です。これが帝国大学と同列の大学令による大学となるとさらに八年が必要で、一九二〇年のことです。海老名弾正が総長に招かれます。原田といい海老名といい、いずれも旧熊本バンドですね。

大学を設置するにいたった同志社理事会は、翌年、選科生ではありますが女子学生にも大学の門戸を開くことを決めます。海老名総長自身、「男女共学の準備」と題したペーパーを発表し、女子大学を別個に創るよりも男子の大学に女子の入学を許すこと、すなわち同志社女学校（専門学部）から女学生を入学させることが適当、便利である、と主張しました。

一九二二年には同志社大学の学則が改訂され、同志社女学校専門学部（専門学校令により一九二二年設立。略称は女専）の英文科卒業生を「本科生」（後に正科生）として入学させることが決まりました。かくして翌年に最初の女性入学者が四名（太田のぶ、清水つるよ、冬広幾、勝浦悦）、大学文学部（英文科）に入学いたします。東北帝国大学（一九一三年）、北海道帝国大学（一九一八年）に続く全

国で三番目の共学大学です。私立大学としては最初のケースで、以後、十年ほど私立大学では同志社が唯一の共学校という時代が続きます（『同志社百年史』通史編一、八一〇頁）。

一九二四年には女専から同志社大学法学部（政治学科）に盛口婦美子が入学し、一九二七年には日本初の女性法学士になりました。彼女に一年遅れて法学部（法律学科）に入ったのが後輩の田邊繁子で、彼女も日本で二人目の女性法学士として卒業しました。田邊は専修大学教授として活躍しました（田邊繁子「新島先生と女子教育」一二九頁、『明治村通信』三六、明治村東京事務所、一九七三年）。

ここで思い出してほしいのは、海老名のかつての言動です。青年時代、彼は熊本洋学校の共学化に猛反対しました。しかも後にその時の当事者のひとり（横井宮）を伴侶にするという数奇な結婚をしています。熊本で宮の入学に反対した時の反省がなされておれば、海老名は京都（同志社）では再度、同じ失敗は繰り返せないはずです。万が一にも共学反対論が彼の中で依然として生きていたとしたら、^{すね}脛の

^{きず}疵が^{うず}疼いたはずです。思うに夫人からも「あなた、ジェーンズ先生からの問いをお忘れになったのです

か」とやんわり^{さと}諭されたに違いありません。

海老名総長の時に法学部で学んだ田邊は、在学中に海老名宅を訪ねたおり、新島の女性観を直接聞いています。それによると、新島は八重夫人をいつも「八重さん」と呼び、「一度もおい、とか、お前とか言われたことも聞いたことがなかった」ので、「それでね、私は結婚するとこの人〔傍にいた夫人〕をみやさん、みやさんと呼んで来たのだ」と告白したといいます（同前、三二八頁）。

安中と同志社との協定

次に今日の影の主役、湯浅治郎を紹介します。上州安中で醤油醸造業を営む有田屋の第三代当主です。彼は、新島が一八七四年にアメリカ留学から帰国し、留守家族と再会するために東京から安中に帰省したおり、安中で新島の熱心な伝道に感化を受けて最初に入信したひとりです。以来、教会形成にも尽力します。

一八七七年の夏、新島は湯浅からの要請を受けて同志社神学生の海老名弾正を安中に夏季伝道者として派遣します。翌年、新島を招いて自身を含む三十人に洗礼を施してもらい、安中教会を正式に発足させたり、仮会堂を設けたりしたのも治郎です。一八七九年、同志社を卒業した海老名を安中教会の初代牧師に招聘し、自宅に引き取って面倒もみています。まさに安中教会の大黒柱です。現在の立派な会堂（新島襄記念会堂と呼ばれ、登録有形文化財に指定）が竣工したのも、治郎あつてのことです。

ちなみに戦後には治郎の孫（正次）が祖父や父親（三郎）の遺志を実現するために新島学園を立ち上げます。生前の治郎も「安中の同志社」が欲しかったと思います。教会と学校の「両者併行」が新島のモットーでしたから、湯浅家の人びともまた新島の志を安中でも実現させるのが夢でした。

以来、安中教会と並んで新島学園は、同志社と安中を繋ぐ重要なパイプになります。教会の牧師は初代以来、現在に至るまで同志社出身者が一貫して招聘されています。学園もまた、理事長は第四代を除

いて歴代、湯浅家が務めています。そうした人脈や交流もあって、今年の七月、安中市と同志社は包括連携協定を締結するに至りました。治郎の蒔いた種が結実した感があります。

ところで、新島学園は当初は男子校でした。近くの前橋市に共愛学園という女学校がありましたから、棲み分ける必要があったのでしょうか。共愛は熊本バンドの一人、不破唯次郎が十九世紀に創立した同じ同志社系（組合教会）の学園です。今では、新島学園（中高、短大）も共愛学園（幼稚園から大学までの総合学園）も共学ですから、女子の進学機会は大きく拡大しています。

湯浅家から四人の同志社総長

ところで、湯浅家は同志社総長を四人も出しているのが目を引きまします。初例は海老名です。安中教会初代牧師として治郎の世話を受けた海老名青年は、その後、治郎の妻（初）の従妹である横井宮と結婚し、第八代同志社総長に就任します。彼以外にも治郎と縁続きの総長は三人います。第二代の横井時雄、第九代の大工原銀太郎、そして第十代の湯浅八郎がそうです。

横井は湯浅初の従妹である宮の兄にあたります。大工原は、治郎の長女（にい）と結婚していますから、治郎の娘婿ですし、八郎は五番目の息子です。それぞれの前職が大工原は九州帝国大学総長、八郎は京都帝国大学教授（農学部）というのも奇縁です。

同志社総長を一族から四人も出した家系は、他にはありません。繰り返しますと、治郎自身も代議士の職務を投げうって、いわば影の理事長（財務担当理事）として新島亡きあとの同志社の経営のために無給奉仕をしました。その期間はなんと二十年にも及びます。その間、彼が側面から支えた総長は二代目（小崎）から第七代目（原田）までの六代に及びます。その後、治郎は東京に引き揚げますが、治郎の穴を埋めるかのように第八代（海老名）から第十代（八郎）までの間、治郎の近親者が総長として同志社の経営に当たります。

最後に湯浅八郎の女性教育観を見ておきます。戦後の教育改革において同志社女子専門学校（女専）をどうするかという難題に八郎は直面しました。答えは三択です。（一）女専を廃止し女性の高等教育は共学の同志社大学に委ねる。（二）短大を新たに設ける。（三）独自の女子大学にする。以上三択の中で八郎は（三）を選択しました。『同志社女子大学125年』（一四八頁）が「学園内にあった〔女子大学創立〕反対意見を押さえて、女子大学の存続を擁護できる最適の人」と湯浅八郎を絶賛しているのも、さもありなんです。八郎はさながら女子大の救世主です。ここにも父・治郎の後光が射し込んでいますね。

八郎は、共学大学である同志社大学との差別化をはかるために同じ大学でも女子大は「ユニバーシティ」ではなくて「カレッジ」を目指すことを意図しました。そのため正規の英語名は、同志社大学が Doshisha University であるのに対して、女子大は Doshisha Women's College of Liberal Arts としました。こうして、同志社女子大学はユニバーシティ路線ではなくて、神戸女学院大学（Kobe College）同様にリベラル・アーツ・カレッジ路線を志向するようになります。東京女子大学や京都女子大学が英語名では University を呼称するのに比較すると、その差が際立ちます。

ともあれ、ひとつの学校法人が共学大学のほかに単独の女子大学を合わせて保有するのは日本では稀有のことです。現在、同志社と学習院だけですが、後者は二〇二六年に学習院女子大学を閉鎖します。そうなれば、同志社の特異性がいっそう光ります。それだけ同志社では「女性ひとりが大切」にされている証拠です。なかでも宮、初、海老名、八郎といった湯浅家の人たちは、どこまでも女性に寄り添うという遺伝子を共通に受け継いだり、保有したりしている気がしてなりません。

2023年11月22日 今出川水曜チャペル・アワー「創立記念礼拝奨励」記録